

平成30年度 港区立港南中学校 学校経営計画

平成30年4月5日

校長 渡辺 一信

教育基本法の理念や学校教育法の目標の実現に向けて、学習指導要領の完全実施となり、教育課程が実施され7年目となる。昨年、次期学習指導要領が示され、これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」が重視されている。生きる力を具現化する「資質・能力の3つの柱」を身につけるため「主体的・対話的で深い学び」を実現させる「アクティブ・ラーニング」の視点を意識し、教育課程を軸とした学校教育の改善・充実の好循環を実現する「カリキュラム・マネジメント」を推進し、さらには家庭・地域と一体的に取り組む「チームとしての学校」づくりなどに取り組むことが盛り込まれている。

学校教育を担っている私たち教員は、このアクティブ・ラーニングの考えを重視し、未来を創造する教師として現学習指導要領の完全な実施、港区教育ビジョン・学校教育推進計画（「徳」「知」「体」を育む学びの推進・生き抜く力を育む学びの推進・地域社会で支えあう学びの推進・学びを支える教育環境の充実）の実現のために、そして港南中学校の特色ある教育活動の推進と本校が抱える課題（学校評価）の解決に向けて未来を担う生徒の育成に全力投球していかなければならない。

このことは、子どもたちが夢と希望を持ち続け、輝かしい未来を切り拓く主体者となるよう「健やかな身体」、「豊かな心」、「確かな学力」の育成など、「生きぬく力」をはぐくむ教育を一層推進することである。

昨年度は、「学校運営」「学習指導」「生活指導・進路指導」「学校行事・部活動の成果」「地域・社会貢献意識の醸成」等の成果を残すことができた。

港南中学校の新時代を迎える私たちは、これからも明日への理想に向かってさらなる躍進をして行かなければならない。今年度は、新入生の入学者数が89人となったが、来年度は、120名を超える新入生を迎えられるように学校力を高め地域の子どもたちが進学したい中学校にしていきたい。そして、将来的には各学年3学級を超える区内最大の中学校になることを目指す。

平成30年度は、創立55周年を迎える。港南中学校の新時代を形成すべく港南中学校の大きな一歩を踏み出す年度にしていきたい。そのために私たち教職員は、「魅力あふれる教職員」を目指し地域の憧れの中学校にしていく使命と責任がある。

「魅力あふれる教員」とは、「わかりやすい授業の実践」と「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子どもを育てたい」という教育理念を持ち、子どもや保護者の心の痛みがわかり、その思いや願いに敏感に共感できる豊かな感性をもった教員である。

そして、家庭・地域との連携を深め学校の教育力を高め、さらには部活動を通し個性の伸長を図り文武両道の教育活動を進めていくことが私たちの目指す港南中学校である。

本区は、平成24年度から、アカデミー体制の下で幼・小中一貫教育への実践的取り組みを積み重ねてきた。幼・小中連携を強化し、特に接続期における幼小、小中の段差の解消、カリキュラムの系統性の重視を前提に、生徒一人ひとりに焦点を当てた細やかな指導を推進し、学習意欲の向上や学力・体力の二極化の解消、不登校の解消など港南アカデミーの教育課題の解決に取り組んでいかなければならない。そして、今年度も、特色ある幼・小中一貫教育を推進する。今年度は、隣接する港南幼稚園・小学校との連携にウエイトを置いた幼・小中連携の授業研究に取り組み課題の解決に当たっていく。

また、昨年度は、港区教育委員会研究奨励校の指定を受け「グローバル社会を主体的に生き抜く生徒の育成」～主体的・協働的学びに向かうために必要な資質・能力を育む授業づくり～を研究テーマとして研究に取り組んだ。また、東京都道徳教育推進拠点校として2年間の研究開発をまとめを発表した。

今年度は、東京都の基礎体力向上施策の「スーパーアクティブスクール」の指定校として取り組み成果を発表する。さらに、東京都道徳教育推進拠点校として「評価」について研究をまとめることになる。また、一作年度に引き続き29年度の体力向上の取り組みが評価され東京都から体力向上優秀校の表彰

を受けた。

以上の取り組みの成果を一層効果的にしていくためには、保護者の理解、協力、支援が大前提となることはいうまでもない。したがって、保護者の信頼を得る教育実践を以下のように推進する。

本年度、下記の3つの教育目標を掲げ、教育活動を進めます。

①すすんで、豊かな心と健やかな身体を育む生徒を育てます。

②すすんで、自他の敬愛と協力を重んずる生徒を育てます。

③すすんで、学ぶ意欲と深く考える力を伸ばす生徒を育てます。

「すすんで」何事にも取り組むとは、「主体的・能動的」姿勢を基盤に、体力・道徳（豊かな心）・学力向上をキーワードに生徒を育成する教育活動を推進します。

I 港南中の教育ビジョン（めざす教育像）

求められる資質・能力を育成するためにアクティブ・ラーニングの手法により「学びの質を深め」未来に対応する教育を推進する。

(1) 教育目標

- ①すすんで、豊かな心と健やかな身体を育む生徒
- ②すすんで、自他の敬愛と協力を重んずる生徒
- ③すすんで、学ぶ意欲と深く考える力を伸ばす生徒

(2) めざす生徒像

- あいさつのできる生徒（あいさつ）
- 行事に燃える生徒（行事に燃える）
- 校舎をきれいに使える生徒（きれいな校舎）
- 友だちと仲良くできる生徒（絆）

(3) めざす教職員像（良好な関係の構築をする）

- 厳しいけれど温かく指導する教職員
- 生徒の良さを引き出す教職員
- 研修意欲と実践力のある教職員

(4) めざす学校像

- 安全で安心して過ごすことができる学校
- 生徒一人ひとりが生き生きと楽しく学ぶことができる学校
- 生徒・保護者や地域と教師が信頼関係で結ばれている学校

II 教育目標を達成するため中・長期方策

1 めざす港南中学校像

港南中学校区では、保育園・幼稚園や小学校にはたくさんの園児・児童が入学している。そして、放課後は、たくさんの子ども達が中高生プラザを利用し生活している。その数は、年々増加している。その子ども達がやがて、中学校にも押し寄せてくることが期待される。この児童が港南中学校に進学してくるようになるには、これまでの港南中の良き伝統（生徒に親身になって面倒見の良い指導）を継承しつつ、体・徳・知のバランスのとれた質の高い生徒を育成し多くの成果を示す必要がある。

不易と流行の調和を図りながら、新しい社会状況に対応した「求められる資質・能力を育む」教育を推進していかなければならない。

5年後に創立60周年を迎える。港南中学校の新時代を迎えるにあたって私たちは、生徒が心から進学したい中学校としてさらなる躍進をして行かなければならない。今年度は、新入生の入学者数が89名となったが、これからは、120名を超える新入生を迎えられるように学校力を高め地域の子もたちが進学したくなる中学校にしていきたい。そして、将来的には各学年4学級を超える区内最大の中学校を目指したい。

そのために港南中学校区が、文教地区として、地域教育・文化・スポーツの拠点となり地域と共に在り、地域に信頼され、子どもたちが誇れる文武両道の中学校となり誰もが通いたくなるような魅力的な学校をめざす。

港区教育ビジョン『目指すべき子どもの姿』

「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、自己の未来を創造する子ども」

2 中期的経営目標実現のための方策

(1) 充実した学習指導で自己の進路実現を達成する（学力向上）

- ①確かな学力の定着を図るため少人数授業を推進します。
- ②「全国・都・区の学力調査」で港区1番になります。
- ③ゲストティーチャーの積極的活用し分かりやすい学習に努めます。
- ④グローバル時代に対応できるように、英検受験の100%受験を目指します。
- ⑤各教科、総合的な学習の時間において、これからの時代に求められる資質・能力を育成します。
- ⑥情報化社会に必要なモラルを育成するとともに、ICTを活用した教育を推進します。

(2) 大人への育ちを充実させる（自立した生徒の育成）

- ①生命を尊重し、自他の敬愛を重んじ他者と協力して行事等に取り組む態度を育てます。特に、思春期を意識した性教育に取り組みます。
- ②礼儀を重んじ、きまりを守り、個人や集団生活の向上に努める心と態度を育成します。
- ③いじめや不登校などを未然に防止するとともに、問題の早期発見、早期解決に努めます。
- ④生徒会活動・委員会活動の活性化を図り、生徒の自主的・自立的な活動を支援していきます。
- ⑤家庭、地域社会との連携した行事を行い、生徒の豊かな自己実現を支援します。
- ⑥生徒の健全育成と自己管理能力を育むとともに生徒の地域貢献の活動を推進します。
- ⑦不登校生徒への関わりを大事にして、積極的、組織的に推進します。
- ⑧自尊感情を高めるために、良さを認め、引き出し存在価値が認められる教育を推進します。
- ⑨生徒の活躍やまじめな生活態度を評価するために学校表彰を行い讃えます。
- ⑩道徳の授業を推進し「生徒の規範意識の高まりを感じられる」と肯定的な回答をした担任教師の割合「80%」を成果指標とする。

(3) 心の支援を推進する（教育相談の充実）

- ①生徒一人ひとりが、生き生きと意欲的に学校生活を送れる教育を推進します。
- ②いじめ・不登校を未然に防止し安心して学校生活を送れるようにします。
- ③年度当初にスクールカウンセラーと面談を計画します。また、月1回、不登校生徒・家庭との連携を図り、不登校出現率を4.0%にします。（昨年度は、8.2%：2年5、3年10）

(4) キャリアプランニング能力の育成（進路・キャリア学習の充実）

- ①3年間を見通し望ましい勤労観、職業観、進路観を育むキャリア教育を推進します。
- ②将来の職業や生活を見通して、主体的に進路を選択する能力や態度を育てます。
- ③企業人を招き必要な汎用的能力・望ましい勤労観・態度を育成します。
- ④自分が希望する第1希望の高校に100%進路実現ができるようにします。
- ⑤領域診断テスト、学力テスト等の資料を基に進路指導を進めます。

(5) 学校力を高める（カリキュラム・マネジメントの充実・組織運営）

- ①各主幹・主任は、それぞれの責任と協力の基に組織的な学年・学校運営を行います。
- ②各自が個人の課題意識をもって外部研修に参加し教科指導や学校運営の資質の向上を図ります。
- ③サービス事故防止研修、体罰防止等サービス規律の厳正を図り、保護者から信頼される教育活動を行います。
- ④施設・設備の安全点検を毎月適切に行うと同時に学校内外の環境美化と整理整頓に努めます。

- ⑤学年会計、部活会計、事務担当、学校予算の適切な執行管理を行い会計事故防止に努めます。
- ⑥学校便りや学年便りを毎月・毎週定期的に発行し、港南中学校の教育活動を常に公開します。
また、ホームページも毎週更新し、家庭への連絡はホームページのお知らせ欄も効果的に活用します。
- ⑦港南アカデミーの幼稚園・小学校との連携を推進し港南中学校の生徒数を一層増大させます。
- ⑧地域に根ざし、地域コミュニティの中核としての役割を果たし地域密着した校風を作ります。
- ⑨体育・スポーツ活動の充実をはかり、体力・運動能力の向上とスポーツに対する意識を高め、生涯にわたってスポーツに親しむ生徒を育成します。
- ⑩プラクティスタイムに各学年週1回の体力・運動能力の向上を継続して実践します。
- ⑪特別支援学級生徒の障害の特性に沿った支援の仕方やかかわり方を全教職員が理解し合理的配慮していきます。

(6) 生き抜く力の育成（特別活動・その他）

- ①東京海洋大学をはじめ地域の関係諸機関との交流・連携を充実させ、地域の特色を取り入れた体験的な学習活動を推進します。
- ②日本の伝統・文化理解教育を推進し異文化理解、価値観の違いを認め合う豊かな心を育みます。
- ③生徒一人ひとりの個に応じた合理的配慮のあり方を学び、全ての生徒が楽しい学校生活を送れるような支援を行えるようにします。
- ④尾瀬夏季学園や港区学校版環境ISOの活動を通して、環境問題に関心を持ち、環境に対する人間の責任と役割を理解し、節電・省エネ・リサイクル等の実践的態度と行動力を養います。
- ⑤英検、数検、漢検の受験指導を推進します。
- ⑥港南地区総合防災訓練に参画し地域の防災に対する意識や態度を育み、地域における中学生としての地域協働意識を養い防災に対する意識を高め自助公助の防災態度を育成します。
- ⑦東京海洋大学との毎月1回の運河学習を通して運河について理科の共同研究を行います。
- ⑧学校版環境ISOの取組として各学年の環境教育を推進します。
- ⑨補充学習や家庭学習等の指導の充実を図り、生徒の学習意欲・学力向上を推進していきます。
- ⑩思春期の生き方指導として各学年学期に1回の学級担任等による性教育を推進します。
- ⑪東日本大震災を通して、命の大切さ、人と人とのつながり、他を思いやることを学び、これからの日本に役立とうとする生徒の育成に努めます。

3 長期的経営目標実現のための方策

(1) 豊かな心と健やかな身体を育む生徒を育成するために

- ①心の教育を推進します。そのために、性教育や道徳の授業を中心に教育を展開します。
- ②集団の中で好ましい人間関係の構築、個々の社会的自立の資質向上を図ります。
- ③豊かなスポーツライフの基礎の育成し、健康・安全な生活態度を培います。

(2) 自他の敬愛と協力を重んずる生徒を育成するために

- ①授業や行事の工夫をし、他を重んじ協調していく姿勢を育成します。
- ②仲間と協力して目標を達成できるようにして達成感や成就感を味わえるようにします。
- ③国際都市港区の地域性を生かし国際理解教育の充実を図ります。

(3) 学ぶ意欲と深く考える力を伸ばす生徒を育成するために

- ①「わかる授業」の工夫・改善を行い、課題を深く考え探求する態度を養います。
- ②課題解決学習や体験的な学習を積極的に取り入れ、すすんで学習に取り組む意欲を育てます。
- ③課題を解決していく能力の育成を図るため、3年間を見通したキャリア学習を実践します。
- ④授業と家庭学習が連動する学びのサイクルづくりを推進し学習効果を高めていきます。
- ⑤東京海洋大学と連携をして科学的思考を育てます。そして、その成果を発表していきます。

(4) 港南地区を文教地区に高め地域の融合の中核となるために

- ①保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学や子ども中高生プラザ・芝浦港南総合支所との連携を密に図り地域で児童・生徒を育成します。
 - ②共育懇談会を開催し子どもたちの健全育成を家庭・地域・学校の三者が協力をして推進します。
 - ③港南総合防災訓練に総合支所・港南防災ネットワーク等と協力して地域防災に取り組みます。
 - ④地域の教育力を学校教育に活かし学校教育の充実を図り、自立した生徒を育成します。
- (5) 港南中学校の学校規模を各学年3～5学級規模を想定した学校の体制づくりを進めるために
- ①生徒数の増加は、学習・部活動、学校行事等に活気が生まれ活動が充実する。このことにより、生徒の自尊感情が生まれ学校を誇りに思う生徒の育成に連動する。このため当面各学年3クラス規模の中学校を目指す。さらに校舎改築へ発展するように生徒増になるように努めます。35年度までに港区基本計画に港南中学校の改築の事業計画に入れるように努力します。
 - ②教育力の向上を図り授業・行事・特別活動等の充実に万全を期して取り組みます。
 - ③生徒が希望する進路が決定できるように幼・小中一貫教育を推進します。
- (6) 港区教育ビジョンの実現のために、常に自己の資質・能力の向上を目指すように努めます。

Ⅲ 教育目標を達成するため今年度の方策

1 体力向上（豊かなスポーツライフの基礎の育成）

平成28年度から「スーパーアクティブスクール」の都指定校として3年目の体力向上に努める。

- (1) 日常の保健体育科の授業を充実させ楽しい授業を通して体力向上を図る。
- (2) プラクティスタイムで週1回学年スポーツタイムを設定して体力・運動能力向上に努める。
- (3) 体育的行事運動会、区連合体育大会、部活動等を通して体力・運動能力の育成に努める。
- (4) スポーツテストを通して自己の体力・運動能力の自己理解を図り、体力・運動能力の向上を目指す。
- (5) NPO法人クラブトムと協働し学期2回以上のスポーツクリニック、スポーツセミナーを開催する。
- (6) 東京国際ユース(U-14)サッカー大会の海外の参加チームを招き国際交流を実施する。

今年は、ベルリン、北京の選手団が来校する。

- (7) オリンピック・パラリンピック教育を意図的・計画的に取り組む。（知る・観る・する・支える）
- (8) 縄跳びの講習を通していろいろな跳び方を知り縄跳び検定に挑戦する中で体力を高める。
- (9) プラクティスタイムに各学年週1回の体力・運動能力の向上を実践する。

体力調査の体力合計点の全国平均を100とした時、中男子「95」、中女子「94」を目指す。

以上の体育的活動を通して体力・運動能力の向上・精神の健康やスポーツライフの基礎を培い、オリンピック・パラリンピックの学習を深め東京オリンピック開催都市東京都民の一人としての意識を高める。

2 道徳性の育成（人格の完成、社会の形成者、自立的、主体的に生きる力の向上）

平成28年度から2年間、東京都道徳教育推進拠点校として生徒の道徳性を高める実践的研究を進めてきた。今年度は、評価を中心に取り組む。

- (1) 道徳の授業を年間計画に沿って毎週実施する。（量的確保）
- (2) 学習内容は、学年で担当が内容項目を決め指導案を作成し効果的指導法の共有化を図る。道徳の授業は、不断の改善、充実を図り担当授業者を決めて全員が授業を行う。（同僚性）
- (3) 道徳の授業は、「考える道徳」「議論する道徳」の授業の実現に向けた授業に取り組む。全教科で取り組んでいるアクティブ・ラーニングの視点で行うようにする。（質的転換）
- (4) 道徳の授業の充実を図り規範意識や思いやりの心を育てる。いじめや差別などのない人権に配慮した生活ができるようにする。
- (5) 道徳に位置づけ性教育の授業を学期に1回実施し思春期の生き方指導を行う。思春期を迎えた生徒の課題を受けとめ人間としての生き方教育を推進する。
- (6) 評価は、記述式で相対評価でなく個人内評価とする。

生徒がいかに成長したかを積極的に受け止める個人内評価を行う。

- (7) 各教科における道徳教育に関わる内容が分かる全体計画の別葉を作成する。

教科学習の中で道徳価値を意識した授業を展開する。

- (8) 道徳教育の目標は、人間としてよりよく生きようと道徳性を養うことである。

(人格)すなわち、自立した人間として、他者と共によりよく生きようとする人間として育成する。

- (9) 近隣の港特別支援学校と連携し交流を通して思いやりの心を育成する。

- (10) 総合的な学習の時間では日本の伝統・文化体験を実施し、日本の文化の理解を深める。

- (11) 地域参加型もちつき大会を実施して地域との方々との交流を大切にする心を育成する。

- (12) 運動会、学芸発表会等異年齢集団の取り組みを通し協力や思いやりを育てる。特に、E組との交流行事として集団活動を通した心の育成を図る

- (13) 道徳科において以下の特別な支援を必要とする生徒に対し配慮していく。

○学習上の困難○注意集中や行動の抑制の困難○他者との社会的関係性の困難等がある場合には合理的配慮をしていく。発達障害等の生徒については配慮すべき観点を学年教員で共有し、その指導の成果はさらに全校で共有するようにする。

- (14) 運動部や文化部の部活動を通して異年齢集団の交流活動をする。

部活動の活動の中で心身の育成を図る。

3 学力向上（能動的・協働的な学習・確かな学力の育成）

平成28・29年度港区教育委員会研究奨励校の指定を受け「グローバル社会を主体的に生き抜く生徒の育成」～主体的・協働的な学びに向かうために必要な資質・能力を育む授業づくり～の研究成果を継承し、学力向上を最優先課題とした生徒の主体的・協働的な学習態度の育成を図る。

プラクティスタイムの設定により主体性のある学習態度を育成する。

- (1) 確かな学力の定着を図るため英語・数学の少人数授業を推進する。

知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、言語活動の充実を図り深い学びと学習意欲を高め学力を向上させる。

- (2) 成果指標を設定し学力を高める。

全国学力学習状況調査の全国平均を100とした時、国語「110」、数学「108」成果指標とする。

区学力調査の全国平均を100とした時、中3理科「105」を成果指標とする。

- (3) 生徒一人ひとりの学力向上を図るために、家庭学習の充実を図る。

授業のみならず家庭学習まで指導の手を広げ、主体的な学びを支える学びのサイクルづくりを推進する。そのために、家庭学習の習慣化を図る港南ノートを活用し1年生60分・2年生70分・3年生80分の家庭学習を実施するように保護者の協力を得る。

- (4) 能動的・協働的な学習態度の育成を図るプラクティスタイムを設定する。

港南ノートを活用した「能動的な学習態度の定着」「協働的な問題解決学習」「振り返り学習」の形成に取り組む。

- (5) 全教科に渡って港南プロジェクトの取り組みを行う。

UD（ユニバーサルデザイン）を工夫し「分かりやすい学習」の充実を図り課題解決学習の習慣形成を図る。そして、授業の港南スタンダードを作り上げていく。

- (6) 東京海洋大学と連携し、運河学習を1・2年生で実施する。

昨年度の鉄炭団子の活用から科学的思考力・判断力を深める。さらに、運河を大切にする心情や美しい運河をもつ地域の一員としての環境リテラシーの意識を持ち自然環境との関係性を認識した生徒を育成し、持続可能な社会づくりに向けた教育を推進する。

- (7) 勉強部を中心に補習・補充授業を計画的に実施する。

さらに勉強部の効果を高めるために大学生の外部人材を活用した学習支援を行う。

- (8) 生徒の授業に対する自己評価・授業評価を実施し学力向上の学習改善を行う。

4 その他の重要課題

- (1) いじめのない学校を目指す。
各学期にいじめに関わる道徳の授業（発生予防）、いじめ調査（早期発見）や担任等の教育相談（早期対応）、保護者との連携を実施する。
- (2) 教師と生徒との良好な関係性の構築は、いじめ問題を防止する。
教師の人間性（態度・姿勢）と専門性（授業力、指導力、統率力）が、教室内の雰囲気や人間関係を方向付けるので教師としての人間性、専門性を高めるように研修・研究に取り組む。
- (3) 体罰のない教育を推進する。
高い授業規律を形成し、安心して学習でき分かりやすい学習指導を徹底する。
- (4) 学校関係者評価（23項目中6項目）の低い項目を重点課題として取り組む。
「不登校の取り組み 34%」「分かりやすい授業 57%」「いじめ防止 61%」「不審者・ハイテク犯罪防止 69%」「道徳の授業内容の充実 61%」「施設設備の安全管理 66%」の項目が70%以下であった。前述の項目は「取り組み評価を70%以上にしさらに、取り組んでいないを20%以下」にする。
- (5) 学校内の事故やけがが起こらないように安全に配慮した学習指導を行う。
- (6) 携帯・SNSの使用については、家庭が主体的に取り組むこととするが、その依存的行動により学習や生活の乱れ等を誘引しないように、港南ルールを決めて学校・家庭の相互の協力をする。
- (7) 地域の事業所の協力のもと、職場訪問（1年）や職場体験（2年）3日間の実施をする。
- (8) 職場体験事前学習として区事業所の協力を得ながらコミュニケーション能力育成体験学習をする。
- (9) 港南アカデミーの幼・小中連携に取り組み連携を深める。幼・小中のギャップを解消していくと共に質の高い連携を図る。特に小学校から中学校へと進学するように働きかける。
- (10) 進路学習として上級学校の進路に対する意識を持って中学校生活をするようにする。
上級学校調べ（1年）、都立芝商業高校訪問（1年全員）、都立三田高校・芝商業高校の先生による都立入試対策講座（3年）、公私立高校長の進路講話を開催（2・3年）し上級学校の進路に対する意識を持って中学校生活をするようにする。
- (11) 総合的な学習の時間では日本の伝統・文化体験を実施し、日本文化の理解を図る。
- (12) 地域参加型もちつき大会を実施して地域との方々との交流を大切にする心と態度を育成する。
- (13) 全校生徒参加の地域防災訓練を行って防災意識を高め、地域貢献の態度と心を育成する。
昨年度に引き続き宿泊防災訓練による避難所開設訓練を行う。また、1年生で港南地域の防災施設・設備の所在と意義を学び見学する防災町歩きを行い地域防災の認識を深める。
- (14) 運動会、学芸発表会等異年齢集団の取り組みを通し協力や思いやり、リーダーシップの心を育成する。
- (15) 教師と生徒の良好な関係性の構築は、いじめ防止や学力向上、学級経営の効果を高める。